

かるがも



発行所 千葉県こども病院
〒266-0007 千葉市緑区辺田町 579-1
TEL 043-292-2111
FAX 043-292-3815
<http://www.kodomo.umin.jp/>

第31号



病院長 伊達裕昭

新年度も一ヶ月を過ぎてしまいましたが、平成24年度の病院内部の主な職員異動についてお知らせ申し上げます。



看護局では平成20年度から4年間にわたり当院の運営に尽力された松本幸子看護局長が退職され、県庁健康福祉部から大矢智子看護局長を迎えました。以前にも看護師長そして副看護部長として当院の運営に携わっていましたが、また新たな視点でこれからの病院運営に参画してもらいます。医療局でも開院当初からのメンバーである精神科の佐藤真理部長が定年退職されたほか、神経科の新井医長、放射線科の横山科長を始め、皆さまに長く慣れ親しんでいただいた多くの職員に異動がありましたが、業務に支障を生じることが無いよう後任が対応に努めます。前任者に引き続き、どうかよろしくお願い申し上げます。

昨年度は一年間を通して外来延べ78,000名、入院延べ60,000名の来院者を数え、過去5年間では最高の2,100件の手術が行われました。開院した当時に求められた診療機能を遙かに上回るこうした状況にも適切に対応し、安全で安心な医療を継続して提供できるように、医療スタッフを適宜増加してIT化も進めてきましたが、建物の構造上の問題はなかなか解決できないまま年月が過ぎていきます。狭隘化した外来の診察室および待合スペースの拡張、入院病室の環境整備、トイレや食堂・売店などのアメニティ向上、院内学級の学習環境確保など、病院機能をより充実させるための施設内構造の見直しは、今後の中長期の計画を見据えて取り組むべき課題と考えています。



この3月に第2駐車場の一角に完成した周産期センターは、そうした病院機能の見直しの一つです。来院される皆さまには駐車スペースの制限や騒音など、工事のために昨年一年間を通して大変ご迷惑をおか

けしました。新しい周産期センター3階部分に既存の新生児集中治療室(NICU)が移ってきたほか、当院の診療機能に新たに加わった産科部門には君津中央病院から江口修部長、沖縄県立南部医療センターから末田雅美医長を迎えて、4月から診療を開始しています。産科の増設により、出生後に他施設から当院に搬送される途中のリスクや、お母さんとお子さんが別な医療機関に入院する母子分離の問題が解消されます。さらに、胎児期に診断された病態に対しては出生前から小児科医や遺伝カウンセラーが関与し、分娩前から出生後の治療まで連続した対応が可能になります。ただし医師数の関係から、当面は千葉大学産科も併診していただき、出産直後から当院の診療機能を必要とする分娩についてのみお引き受けすることにしています。ご了承下さい。



5月に入って新緑が色濃くなり、出遅れた春を取り戻すように急速に暖かくなってきました。気温の上昇とともに、来る夏場に向けて電力不足の懸念が再び取りざたされています。国内で稼働する原子力発電所がこの5月でゼロになったことから、このまま再稼働が無ければ関西電力圏内では最大消費電力のマイナス15%までしか供給できないという試算が発表されました。今年もまた大停電の不安がある夏を迎えるのかと思われた方もいらっしゃるでしょう。昨年の3.11直後の記憶はまだ鮮明であるものの、その後の一見安定した電力供給状況と特に不自由の無い日常生活から、いつの間にかあまり節電節水などを意識しなくなっている自分に気づきます。一年前はどうかだったでしょう。あの震災直後の計画停電の混乱を経験して、何とか夏期の大停電は回避しようと病院中で節電に取り組みました。危急時の混乱を避けるために医療機関を計画停電の対象から外してもらうことは当然としても、それを免罪符として病院だけが自由気ままに電力消費をして良いはずありません。求められる病院機能を常に維持できるように電力を安定して供給してもらうためにも、病院自体も不要な電力消費を回避するよう努めるべきであり、それは今年になっても、そして比較的電力に余裕があるとされる関東地方にあっても、決して忘れてはいけないことと考えています。

今年もまた暑い夏が近づいてきます。当院では昨年に引き続き、継続的な節電を職員に呼びかけて病院として取り組みます。どうか皆様にはご理解と一層のご協力をお願いします。

